

第3次山形県循環型社会形成推進計画（案）についての意見募集（パブリック・コメント）の結果

1 意見の募集期間

令和3年2月3日（水）～ 令和3年2月23日（火）

2 提出された意見の件数

9件（意見提出者数2人）

3 提出された意見の概要及び意見に対する県の考え方

番号	意見の概要	県の考え方
1	【施策とSDGsの関係性】 第5章以降でSDGsと施策ごとの関係性を示したことは斬新な試みで評価できる。	今後の具体的な施策展開にあたっては、SDGsとの関係を明記するように努め、県民の意識向上による施策効果の拡大を図ってまいります。
2	【産業廃棄物最終処分場の残余年数(p53)】 「産業廃棄物最終処分場の残余年数が2018年度で13.0年」とあるが、2020年3月の常任委員会で県の担当者が「18年度末時点で残余容量は合計350万m ³ で、現在のペースでいけば残余年数は11.7年」と答弁しており、整合性はどうか。	精査の結果、11.7年が正しく、修正しました。
3	【評価指標】 評価指標が概ね2018年度実績だが、もっと新しいデータはないのか。	確定した最新年度の数値を掲載しています。
4	【集団回収量の推移】 「一般廃棄物の目標未達成の原因に度々「集団回収量の減少」が記載されているが、そのデータがあれば良いと思う。	集団回収量の推移を資料編（p.資料—10）に掲載しました。
5	【目標未達成項目のコメント】 【事業者の取組に関する目標】において、目標未達成項目（発生抑制、循環的利用、3Rに係る人材育成）についてもコメントしてほしい。	「多量排出事業者数」「一般廃棄物処分業者による再資源化量」「農業用廃プラスチックのリサイクル率」「製造業等におけるリサイクル率」「リサイクルシステム認証制度の認証数」「環境保全型農業実施農家の割合」についてコメントを追記しました。
6	【基本的数値目標の設定（p33）】 「1人1日当たりのごみ（一般廃棄物）の排出量」の目標値について、国の目標値と整合させているようだが、基本目標「全国一ごみの少ない県」を目指しているのだから国と同じ目標は相応しくないと思う。	2018（平成30）年度の全国一ごみの少ない県である長野県の実績値817gを踏まえ、目標値を810gに修正しました。
7	【基本的数値目標の数値（p33）】 「事業系ごみ（一般廃棄物）の排出量」の	文中の数値を87千トンに修正しました。

番号	意見の概要	県の考え方
	目標値について、文中の数値（p33）と表（p34）の数値の整合が取れていない。	
8	【家庭系食品ロス発生量の中間目標（p36）】 「家庭系食品ロス発生量（県独自試算）」の <u>中間目標は何故示さないのか分からない。国に準じる必要はないと思う。</u>	新たに中間目標として20千トンを設定しました。
9	【計画の見直し（p62）】 「本計画策定時に想定されなかった新たな課題や・・・見直しを行います。」とあるが、 <u>中間目標をクリアできなかつたり、目標が達成困難となつたりした状況も含んでいるのか明確にした方が良くと思う。</u>	計画の見直しは、新たな課題や社会経済情勢の大きな変化があった場合を想定していますが、その他のさまざまな状況の変化も含めた総合的な判断により見直してまいります。

4 問い合わせ先

山形県環境エネルギー部循環型社会推進課 リサイクル・環境産業担当
電話 023-630-2322